

## 短大特任教員教育研究業績書

平成30年5月7日

氏名	ふりがな	所属	職位	性別
末松 加奈	すえまつ かな	保育学科 通信教育課程	教授・准教授・講師・ 助教	男・♀

## 担当科目名

教育の方法と技術

## 学歴

和暦(西暦)年 月	事項	学位
平成13年(2001年)4月	東北大学工学部機械・知能工学科 入学	
平成17年(2005年)3月	東北大学工学部機械・知能工学科 卒業	学士(工学)
平成17年(2005年)4月	東北大学大学院工学研究科ナノメカニクス専攻 入学	
平成19年(2007年)3月	東北大学大学院工学研究科ナノメカニクス専攻 退学	
平成26年(2014年)4月	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科人間発達科学 専攻保育・児童学コース 入学	
平成28年(2016年)3月	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科人間発達科学 専攻保育・児童学コース 修了	修士(学術)
平成28年(2016年)4月	東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻教育内容開発 コース 入学 (～現在に至る)	

## 教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
日本コンベンションサー ビス株式会社 (常勤社員)	平成19年6月 ～平成23年8月	営業、プロジェクトマネージャー
国立大学法人電気通信 大学 (常勤事務職員)	平成23年9月 ～平成28年3月	図書館に係る会計業務および学生支援
東京未来大学福祉保育専 門学校 (非常勤教員)	平成28年4月 ～平成30年3月	「教育の方法と技術」「保育の心理学Ⅱ」担当
小田原短期大学	平成30年4月 ～現在に至る	保育学科通信教育課程 助教 「教育の方法と技術」担当

## 所属学会等

名称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
日本発達心理学会	平成26年10月 ～現在に至る	大会参加
日本科学教育学会	平成26年10月 ～現在に至る	大会参加
日本教育心理学会	平成26年10月 ～現在に至る	大会参加、ポスター発表
日本理科教育学会	平成26年10月 ～現在に至る	大会参加、ポスター発表
日本数学教育学会	平成28年6月 ～現在に至る	大会参加
日本教育学会	平成28年5月 ～現在に至る	大会参加、口頭発表

## 社会活動等

名称	活動期間	活動内容
NPO 法人お茶の水教師 の第三の学研究会	平成26年4月 ～現在に至る	会員 (文京区教育委員会との共同開催事業への協力、教員志望

		学生への助言など)		
一般社団法人日本幼児 さんすう協会	平成28年1月 ～現在に至る	理事 (協会認定資格「幼児さんすうアドバイザー」の認定、幼 児教室使用教材・カリキュラム開発など)		
担当教科目に関する資格・免許等				
名 称	取得年月	取 得 機 関		
高等学校教諭専修免許状 (理科)	平成28年 11月 年 月	東京都教育委員会 (平二八高専第一四五号)		
研究実績に関する事項				
代表的な著書、論 文等の名称	単著共 著の別	発行又は発 表の年月	発行所、発表雑誌又 は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
1. 初等教員養成 系大学の学生にお ける理科の教育履 歴と理科への意識	共	平成28年 12月	大東文化大学教職課程 センター紀要, 第1号 (pp:107~110)	今後の初等教員養成の理科に関する支援の在り方を研究目的 とし、どのような指導法を、初等教育理科及び就学前教育に 取り入れたらより有効かについて検討した。幼小での実験や 観察などの実体験を多く積むことが理科苦手意識を無くすた めには重要とすることが判明した。
2. 過剰情報を含 む算数文章題の誤 りに関する一考察	単	平成29年 1月	東アジア教育研究, 第 3号 (pp:1~11)	小学校1年生児童を対象とし、過剰情報を含む算数文章題に 対する児童の誤りの原因と指導法との関係について調査し た。その結果、児童は幼児期を通して発達させた数概念を用 い、数字や立式を伴わない状況下で問題に正答した。一方で、 正しい場面理解を立式に適用することなく、授業で学んだ方 略を暗記再生的に使用し立式を行うことが過剰情報を含む文 章題の誤りの原因であることが示唆された。(査読あり)
3. Attitude Survey Regarding Science and Academic Records of Elementary Teacher Trainees in Japan	共	平成29年 7月	東アジア教育研究, 第 4号 (pp:87~98)	本研究では初等教員養成及び幼稚園教諭希望の学生に対し理 数科目に関する学習歴および理科に対する意識調査を行い、 小学校教員の理科指導に対する苦手意識の一因として理科実 験の経験の少なさがあげられ、理科実験実習を避ける傾向が あることが明らかとなった。(査読あり)
4. 小学校の「寺 子屋」(土曜学級) における自然観察 教室の取り組みと 教育学的効果	共	平成29年 12月	大東文化大学教職課程 センター紀要, 第2号 (pp:155~159)	本研究では、自然観察教室の実践例をもとに、課外活動とし ての自然体験の教育学的効果について検討した。その結果、 低学年児童の参加は幼児期に自然に親しんだ経験、生活科、 理科学習をつなぐような教育が期待される。さらに、異年齢 集団活動をとおした社会性の向上や、身近な自然に触れるこ とによる科学的な概念の発達が期待される。
(その他)				
1. 初等教員養成 系大学における理 科の教育履歴に関 する調査報告-小 学校教員の養成の 支援のために-	共	平成27年 8月	日本理科教育学会第 65回全国大会発表	本研究は、初等教員養成系大学の大学生に対し、理科の教育 履歴を調査し、理科の内容に関する確認試験を行った報告で ある。その結果、地学分野の地形図の理解が十分でなく、養 成課程における自然体験演習の中でも地学分野に関する経験 を充実させる必要が示唆される。さらに、科学的思考・数学 的思考が嫌いな傾向があり、この点も大きな課題である。

2. Acquisition of mathematical literacy of beginners in Japan: via an analysis of answers to a non-routine word problem	単	平成 28 年 7 月	ICP2016 31st International Congress of Psychology	本研究では算数の初学者が数学的リテラシーをどのように身に付けるのか、そしてどのような指導法が有効であり、どのような支援が彼らに必要なかを明らかにすることを目的とし、小学校 1 年生の算数授業の観察やインタビューを行った。その結果、算数文章題に対し、立式せずに正答する一方で、正しく立式できないという傾向が見られた。(査読あり)
3. The Factor of Science-phobia: Test of a Causal Model of Likability of Science	単	平成 28 年 8 月	2016 International Conference of East-Asian Association for Science Education Conference	本研究は、理科嫌いの要因を明らかとするために、大学生に実施した質問紙調査である。学習経験を振り返り小・中・高校当時の理科の好き嫌い、幼児学童期の自然科学体験、自然や科学への興味関心などを調査し、理科好感度との因果モデルを構築した。その結果、自然科学体験が理科好感度に影響を与えていることが示唆された。今後の理科嫌いを作らない理科の指導法に応用する基礎的な課題の一つである。(査読あり)
4. 理科に対する好感度の学年進行による変化の検討	単	平成 28 年 10 月	日本教育心理学会第 58 回総会発表	本研究は、小・中・高校と理科に対する好き嫌いや教科観、学習観の発達的变化を明らかにすることを目的に、大学生に実施した質問紙調査である。その結果、理科に対する好感度が一貫して高い群では低い群と比較し、幼児学童期の自然体験が豊かであった。
5. 小学校 1 年生における算数文章題の場面理解に関する研究	単	平成 29 年 10 月	日本教育心理学会第 59 回総会	算数文章題の解決において、問題に示される状況や数量関係を理解すること(これを場面理解という)が重要である。そこで、算数文章題を苦手とする児童への教授法の確立を目指し、小学校 1 年生の場面理解の発達を検討した。その結果、数量関係の把握が難しい問題では、1 年生の段階では、場面理解が難しいことが明らかになった。
その他 (表彰等)				